

0歳から18歳までの継ぎ目のない共育を実現させよう！

前回のおたよりでは、「探究学習」という新しい学びがこの川根本町でどのように展開されているのかについてお伝えさせていただきました。そして「探究学習」が、22世紀を生きる子どもたちにとって大切な力を育む学びであることもお伝えさせていただきました。

今回は、「探究学習」をテーマに実施した中高合同研修会でのシームレスな学びを紹介したいと思います。

「ファシリテーション」と「探究学習」



昨年度に引き続き、講師としてお招きした関西大学の岩崎保之教授は、ファシリテーションの専門家です。ファシリテーションとは、グループや個人の対話・活動を円滑に進め、目標達成や学びの促進を支援する技術や役割のことです。実はこのファシリテーションと探究学習は密接な関係にあります。探究学習では学習者の主体的な活動が重要です。ファシリテーションは学習者が自ら考え行動できるよう促すため、その支援役となります。また、探究学習は協働的な問題解決や意見交換が多い学びです。ファ

シリテーターは対話を活性化し、多様な視点が出るよう導くのです。前半の講義では岩崎先生自らがファシリテーターとなって、連携校でシームレスに行う「探究学習」の大切さを学ぶことができました。

「好き」を育み「得意」を伸ばす



後半のグループ協議では、「川根の子どもたちの『好き』や『得意』を探究的な学びにつなげるためにできることは何か」というテーマで中高シームレスなグループで協議を行いました。現在、盛んに議論されている次期学指導要領の中のキーワードの一つが、

「『好き』を育み『得意』を伸ばす」です。これは画一斉型の授業が当たり前だった20世紀には、全く考えもつかなかったキーワードです。ですから私たちも固定観念に縛ら

れず、柔軟に学びを考える必要があります。でも、ワクワクすることでもあります。なぜなら「『好き』を育み『得意』を伸ばす」学びは子どもたちを笑顔にする学びだからです。グループで協議する先生方も心なしか笑顔だった気がしましたよ。



第5号も最後まで読んでいただきありがとうございました。これからも川根本町のシームレスな共育について、お伝えしていきたいと思えます。

ご意見ご感想をお聞かせください。

E-mail :

k-ishihara@town.kawanehon.lg.jp